

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 厚木中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 佐藤 弘幸

学校教育目標	学校経営の方針
知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成	・たくましく生きる力の育成 ・確かな学力の育成 ・思いやる力の育成

今年度の重点目標

- ・あきらめずに、もう一度挑戦したいと思える心を育てる
- ・お互いを認め合い、共に学び合い、高め合う活動を支える
- ・お互いの個性を活かし「大きな力を手に入れる」経験をさせる

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
体育大会、栄光祭等の学校行事等への積極的な参加	1・2・3	各行事において縦割り活動を通じた集団作りの充実と、良き伝統の継承に努めた	内外からも高い評価を得る取組が展開できた。縦割り活動の効果が高く、良い伝統を引き継ぐ学校風土の形成が図れた。	生徒が主体的に企画する項目の拡大と、インクルーシブな視点で行事を再点検することで、すべての生徒の達成感を向上させるよう努める。
自分の命を大切にしたり、いじめや暴力を許さない行動をしている	2	「命」の授業、人権週間での活動やいじめ防止宣言を活用して望ましい学校風土の醸成に努めた	今年度も生徒の主体的な活動で、厚木中学校いじめ防止宣言を学ぶ時間を設定できた。教職員は、いじめ防止基本方針の大幅な改定で周知を徹底し、学校教育活動全体で取り組んだ。	取組が形骸化しないよう、校外の教育資源も活用してさらなる予防的指導の充実を図る。
将来の夢または目標に向かう努力	1・3	指導と評価の一体化の校内研究を進め、生徒の授業意欲を高めるとともに、キャリア教育の充実にも努めた	外部講師等の協力を得て、授業改善や評価に関する校内研究を精力的に進めてきた。今後も授業の充実を図ることで目標を達成したい。	学校運営協議会との協働での職業講話の充実や、厚木高校の生徒による授業などを取り入れ、より意欲を高められるよう取り組む。
交通ルールを守り、事故や災害から身を守る	2	厚木中交通安全の日での事故防止啓発や避難訓練等の充実により安心・安全意識の向上に努めた	従来の取組に加え、スケアードストレートや、事故にあっってしまった人の体験などを紹介して、事故防止啓発を図った。令和5年度も、重篤な交通事故を未然に防いでいる。	厚木中交通安全の日を軸に、計画的・継続的に取組を行う。
学校が楽しいと感じる	1・2・3	学級集団アセスメントの導入、グループエンカウンターによる授業で、生徒の自己肯定感の向上に努めた	学級集団アセスメントに加え、毎月の生活アンケートにより、生徒の生活状況をチェックして相談活動につなげることができた。教育相談にかかる時間の確保が課題である。	学級集団アセスメントを2回行い、生徒の変容を指導に生かす取組を始める。
うまくいかないこと・困ったことがあったときに、解決するまで粘り強く挑戦する	1	学校教育活動全般にわたり、「挑戦」に関するねらいを生徒・教員で共有して前向きに取り組んだ	教職員が活動計画に「挑戦」の要素を盛り込み、ねらいを常に意識して取り組むことができた。生徒のスローガンや振り返りにも変化が見られることから、今後も継続して取り組む。	様々な教育活動の振り返りにおいて左記の視点を明確にすることや、外部評価を積極的に取り入れて、生徒のやる気を引き出す方略を考える。
困ったことや不安があるときに学校にいる大人に相談する	2	課題状況に応じた重層的支援の体制を強化し、個々の支援を行った	生徒支援や保護者対応の研修に継続的に取り組み、生徒理解やチーム支援の充実を図った。相談のしやすさの指標の上昇が認められたので、今後も取組を継続する。	困ったことがあった時に「誰にも相談しない」という生徒の割合を減らせるよう、教育相談の時間設定等の充実を図る。

厚木中学校は、GIGAスクールに関して、順調に取り組んでいる	1	日常的にICTを利活用する授業実践を展開した	ICTの活用で授業が分かりやすくなったと答えた生徒が84%となり、授業内容も充実してきたと考えている。動作環境にはまだ制限があるので、今後の充実を要望したい。	授業内での生徒の変容をICTの活用で記録し、主体的に学習に取り組む態度の評価に生かす方略を考える。
部活動への参加	1・3	壮行会や表彰などを通して、活躍を学校全体で共有して、参加・所属意欲を高めた	活動によく集中できており、運動・文化を問わず、すべての部活動で表彰がある年になった。部活動に対する生徒・保護者の期待と働き方改革の両立が難しい。	引き続き、持続可能な部活動の在り方を模索する。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
行事や日常の授業、儀式などの参観を通して充実した教育活動が展開できていること、今年度の対外的な活躍についてお褒めの言葉を多数いただいた。厚木中が掲げる3つの教育指導の重点を、生徒と教職員でしっかり共有し、取組のPDCAサイクルを確立する必要があると助言をいただいている。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
基礎基本を重視し、さらなる学力の向上を目指す。教育指導の重点をより明確に前面に出し、生徒一人ひとりに目標を持たせ、質の高い教育活動を展開したい。生徒同士の人間関係を深め、レジリエンス力の育成を強化して、生徒が生き生きと活動できるような教育活動を実践していきたい。				